

風水害時の避難について

！ 避難行動判定フロー

風水害に備えて、事前に避難行動を考えておきましょう。
まずは、洪水ハザードマップ(4面)や内水ハザードマップ(5面)、土砂災害ハザードマップ(6面)を確認して自宅周辺の危険度を確認してください。

自宅が浸水想定区域または土砂災害(特別)警戒区域に該当しますか？

いいえ

原則、避難の必要はありません。
低い土地やがけのそばにお住まいの方は、市の避難情報を参考に必要に応じて行動してください。

※ハザードマップは、洪水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていない地域でも、災害が起こる可能性があります。

はい



ご自身または一緒に避難する方は要配慮者ですか？
(避難に時間がかかりますか？)

はい



いいえ

安全な場所に住んでいる親戚や知人などはいますか？

はい

高齢者等避難(警戒レベル3)
安全な場所に住む親戚や知人宅に避難しましょう。

いいえ

高齢者等避難(警戒レベル3)
市が開設する指定避難所等(※)に避難しましょう。

安全な場所に住んでいる親戚や知人などはいますか？

はい

避難指示(警戒レベル4)
安全な場所に住む親戚や知人宅に避難しましょう。

いいえ

避難指示(警戒レベル4)
市が開設する指定避難所等(※)に避難しましょう。

※指定避難所等は、防災マップ(8面)をご覧ください。
なお、開設する避難所は災害の規模等により異なるため、市からの情報を受けとれるようにしておきましょう(7面)。

！ 避難の種類

水平避難が原則！ 垂直避難は最終手段です。

●水平避難

洪水・内水氾濫からの避難は「浸水想定区域外の高い土地」へ、土砂災害からの避難は「警戒区域の外」への**水平避難が原則**です。

●垂直避難

水平避難をする時間がないときや、水平避難をすることで逆に危険を招く場合は、建物の上層階やがけなどから離れた部屋に避難してください(垂直避難)。洪水ハザードマップ(4面)や内水ハザードマップ(5面)で自宅の浸水深を確認して、それより上層階に避難してください。家屋倒壊等浸水想定区域に該当する場合は、垂直避難はできません。



▲垂直避難のイメージ。

！ 避難のポイント

避難は早めに

市から避難の呼びかけがあった場合は、速やかに避難しましょう。

無理をしない

浸水が50cmを越えると、大人でも歩くのが困難となります。流れがある場合は、50cm以下でも危険です。避難する際は、歩きやすい運動靴の方が安全です。

浸水時は車での避難は避ける

浸水で車のエンジンが止まる危険があり、60cm程度の水位で車のドアが開かなくなる危険もあります。いざというときのために、緊急脱出用ハンマーを車内に備えておくと安心です。